



あやあは

伊勢  
流芳









はりさのす大木のごりより我屋跡子  
あり子伊勢路の人のたよりもあれハ  
志はしつゝをわくふもと背きよの海を  
さくしりしよちもさく陣まうてあれん  
流芳芳波波ともれせし連句ありとて  
とわおせもせん侍もさおれをよの  
まらこのあれら日敷もあしよよとあれ

まもとめはすすのあちりもさく思はしあま  
すくくくすくく水のあれぬくさく  
はつれハとありあつた浅川と名つけて世子  
ひろくあれあせよとまへはくこのを  
竹意菴のありし黄山あり

甲辰初冬



百歌

流芳

花さくや木の葉の影の流るる家  
 一とまきのあはれうきき日乃花  
 里古く人まきぬきく霧下りき  
 跨けり乃よしの流るるなり  
 老ふ身縁紙亦明くおく向の中  
 うまの眠りを起言 飯少き

大 芳 大 芳

入月如あまのつやぐおふ山  
 春乃つきりれはくく 陣  
 猿のそりぬきくうきき身魂  
 うはくたふきくくはり 破布り  
 穢垢をむくれ意のわきま子  
 おもひん子あまの 摺子れ 大  
 鈴の音 穢日 柳 一 百 鳴く  
 語あしり 三 際 乃 橋

大 芳 大 芳 大 芳 大 芳



傍に坐す根回の藤を以てしこれ  
露をよむるもさくのみくさか整  
夜の露もみゆふ月まゝみく  
うわりのゆりうゝ指の極の波  
証よりさかきい石乃経湯あり  
露をよむるもさくのみくさか  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり

大 芳 大 芳 大 芳 大 芳

ニ

沸くもさくのみくさか  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり  
さかきい石乃経湯あり

大 芳 大 芳 大 芳 大 芳 大 芳



大 湯まきく為鶴らひまをさる  
 大 物れをち紙持きくさる  
 大 ちまき牡母も何の道ゆれ  
 大 ちまきけしきみさるれ力  
 大 為鶴まきさるくさるく物まき  
 大 為れ紙を紙きくさるく  
 大 不道用は紙の料理のさる  
 大 又さるくさるくさるく

大 ちまきく物れを紙持きく  
 大 新の神さるく海山  
 大 物れを紙持きく  
 大 初まきさるく連きけさる  
 大 小使のちまき人さるく  
 大 水さるくさるくはは  
 大 風の物さるくさるく  
 大 物れを紙持きく武隈は松



鶺鴒此 ありあがりな 葉をさしれ

大

光一 ぎくさる 足踏 の 連

大

茶多ハ 木の 影を けし 枯

大

葉の 影を ぬく 風根乃 一ハ

大

水影の 影を ぬく 細え 水

大

嵐 崎 踏る 舟の 影 水

大

水影の やりれ ぬきぬ 花 佛

大

あゝ 故の 写 阿ゝゝゝゝゝ

大

雲 空を 覆ふ きりり 夕の 雲

大

空 空を 覆ふ 夕の 雲

大

濱 境の 影を ぬく 鳴戸 鯛

大

らゝゝゝ 入ゝゝゝ 水うゝ 傘

大

又ゝゝゝ 影のおもき 葉の あり

大

むせむ 影を 引 乾き 葉の あり

大

ききゝゝゝ 極む 影を ぬく 葉の あり

大

あゝ 月を 照らす 影の あり

大



わさささささささささささささささささささ  
菊れ蒼いろ　わささ　　豆房と  
三ッ  
小僧の　ハ　小姓の　さ　おけあ　さ　り  
ゑ　つ　く　き　ん　を　か　く　ま　め　さ  
あ　ま　れ　ふ　と　わ　く　廊　の　明　馬  
う　け　の　さ　お　れ　さ　む　さ　あ　く  
お　の　れ　梅　く　さ　れ　ハ　眠　る　山  
人　さ　え　に　は　く　　知　己　小　あ　ぶ  
大　芳　大　芳　大　芳　大　芳　大　芳

~~~~~と　海　も　ま　う　ぬ　背　　布  
あ　ま　さ　あ　く　　れ　る　わ　さ　あ　さ　あ　さ  
海　邊　よ　あ　ま　さ　も　や　さ　り　烟　は　さ　り  
さ　の　も　さ　さ　り　ハ　い　ぬ　さ　あ　さ　り　の  
勝　ら　さ　り　肩　さ　さ　り　つ　ま　さ　り　さ　あ　り　わ　さ　り  
山　火　の　炎　燒　き　つ　ま　り　や　さ　り  
月　毫　さ　上　戸　と　下　戸　の　隔　あ　く  
~~~~~と　さ　あ　さ　り　　一　日  
大　芳　大　芳　大　芳　大　芳　大　芳



湖をみ残る鴨を 鴨——  
園を法との好義見あふ  
まゝとせしむる 松魚のあまり  
長よふゆらう 盲人琴ひく  
音あふとる 鶴のあまり  
あまらう 別道してそれありの縁  
あふれとけり たちあふ川の音  
あふらう 鶴のあまり

大 大 大 大 大 大 大

都をまゐる 田舎のまゐる 赤きる 鹿  
かい——まゐる ぬ人とあふら  
あふらう のあふらう せ  
あふらう のあふらう せ  
あふらう 年のあふらう せ  
あふらう のあふらう せ  
あふらう のあふらう せ  
あふらう のあふらう せ  
あふらう のあふらう せ

大 大 大 大 大 大 大



あつしとを食の家の裁きよよ。

大

たまりのふらふらとあつしよ

芳

あつしよとあつしよとあつしよ

大

あつしよとあつしよとあつしよ

芳

あつしよとあつしよとあつしよ

大

あつしよとあつしよとあつしよ

草

あつしよとあつしよとあつしよ

一呼

あつしよとあつしよとあつしよ

分橋

あつしよとあつしよとあつしよ

照燈

あつしよとあつしよとあつしよ

てい女

あつしよとあつしよとあつしよ

あつし



春の山つらつらも少くも花はるる  
於此境

花はほし〜  
漁江

花はほし〜  
此境

紫垣や日鏡は山〜の雲も紫  
い〜女

池〜の細れ中れ折〜  
穀所

新緑や新れあやもれ  
採高

その中を〜  
雲裳

着〜のを丁度足跡の掃く車  
可木

一枚小な〜  
菊二

人〜れを〜  
此處

枯〜して〜  
柳塢



堀りしうまのむねをきりぬ  
 けさるのねをひくもや板ひき  
 解をよあさうありしはるる  
 いそがれ海にまはるるまの  
 りいしふ木をぬり池にほろの  
 吹さるる風や枯幹れまわり水  
 可大  
 自耕  
 薩橋  
 西洋  
 業所  
 星德

鶯はさうさうなりさるる  
 曉乃せうを母れ嘉何業種  
 お撰きのま流ふあり枯幹水  
 杜葛  
 潜水女  
 風園

流芳



三吟

都波旌

原中や明をなほくも月の夜

着る亦乃集此風をなほく

鶴の鳴る集るをなほく

指より一くも集るをなほく

年をきて集るをなほく

通る集るをなほく

源芳

可大

旌

芳

大

干

出這入此人をなほく

なるなるけりり利力を研く

子福志といふをなほく

余は口の舌をなほく

一やうの宿と一葉乃恒をなほく

白に根ぬけ一月の八月

細細なるをなほく

うこれくお撲仕ある

旌

芳

大

旌

芳

大

旌

芳



和奇山をえそく後ハ氣も登一

きしんれ海を景ほと乃む

よい隣むハくくくさ正面

柳を垣乃かしく乃今吹く

十  
きくくくくくくくくくく

ちくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくく

つくくくくくくくくくく

大

旌

大

旌

大

旌

大

旌

たのしきあはるき鼻あはる

出干小袖くくくくくく

衣の羽くくくくくくく

物賣も出る字は捺と

きく先よきれく立き人ちく

物も既中をもくく放もぬ

きくくくくくくくくくく

町くくくくくくくくくく

大

旌

大

旌

大

旌

大

旌



海より来る〜

多岐の〜 割む物〜 昆布の壳

昨戸掃〜

光の〜

あ〜

地〜

海

多

大

雄

芳

大

2

2

2

2

馬

人

人



